

平成 19 年 8 月 7 日

委員長コメント

【平成 19 年第 2 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 19 年 4 月 2 日から平成 19 年 7 月 1 日までの 3 か月である。法定報告に基づく新規 HIV 感染者報告数は 270 件（うち男性 251 件、女性 19 件。前回報告 227 件、前年同時期 248 件）で、過去最高である。
一方、新規 AIDS 患者報告数は 110 件（うち男性 103 件、女性 7 件。前回報告 81 件、前年同時期 106 件）で過去 2 位である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 HIV 感染者では同性間性的接触によるものが 182 件（全 HIV 感染者報告数の約 67%）と最も多く、そのうち 175 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 54 件（全 HIV 感染者報告数の 20%、うち男性 42 件、女性 12 件）である。
一方、新規 AIDS 患者では同性間性的接触によるものが 45 件（全 AIDS 患者報告数の約 41%）、異性間性的接触によるものが 38 件（全 AIDS 患者報告数の約 35%、うち男性 35 件、女性 3 件）である。
年齢別では、新規 HIV 感染者は 20～30 代が多数（約 76%）を占め、新規 AIDS 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 92%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が約 60%を占めている。
- 3 平成 19 年 4 月～6 月末までの保健所における HIV 抗体検査件数は 30,114 件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 7,029 件、保健所等における相談件数は 52,008 件となっており、いずれも前年同時期より大幅に増加した。
- 4 平成 19 年 1 月から 6 月までの献血件数（速報値）は 2,456,788 件（前年同時期速報値 2,480,063 件）で、そのうち HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 40 件（前年同時期速報値 48 件）であった。10 万件当たりの陽性件数は 1.628 件（前年同時期速報値 1.935 件）で、前年より減少した。
- 5 新規 HIV 感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えている。また年齢別では、20～40 代に HIV 感染が広がっているものの、前年と比べて 40 代以上の AIDS 患者の増加傾向を認めた。また、検査・相談件数の増加については、昨年の HIV 検査普及週間及び世界エイズデー期間前後に大幅に増加した後も高い水準で維持したまま、2 回目となった本年の HIV 検査普及週間前後にさらに大幅に増加した。HIV 検査普及週間に限れば、平成 17 年同時期と比較すると検査件数が約 2.7 倍、相談件数が約 2.1 倍と大きく伸びているだけでなく、6 月の月間検査件数、相談件数は昨年大きく伸びた 12 月の検査件数よりも上回っている。これらのことを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。

一方で、検査・相談件数が減少に転じている自治体もあり、今後も全国的に検査・相談件数の増加傾向が持続するのか注視していく必要がある。

- 6 各自治体においては保健所等を中心に、さらに利用者の利便性（夜間・休日・迅速検査）に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要であり、H I V感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。検査件数の増加に伴いH I V感染者・エイズ患者の報告が増加していることから、地域の実情に応じて告知後の支援・相談及び医療提供体制の更なる充実を図ることが急務である。

また、国民はH I V・A I D Sについての理解を深め、身近な問題として積極的に予防に努めるべきである。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、H I V抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。